



ボランティアコーディネーション

第3回

コーディネーターを配置し、ボランティア受入れを組織活動に

特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会 事務局長

ごとう まりこ
後藤麻理子

ボランティアコーディネーターが組織や機関に配置されるためには、まずは仕事の固有性と有効性が認知されなければなりません。

ボランティアコーディネーションという働きが、ボランティアの円滑な受け入れや養成、活動の継続のために欠かせない業務として認識されている組織には、これにあたるスタッフが置かれるようになってきました。しかし、ボランティアの受け入れや継続的なかわりがあっても、特に担当を決めていない組織もまだまだ少なくありません。

ボランティアを受け入れる組織においては、必ずその担当者を決め、ボランティアにかかわる時間を業務として位置づけ、必要な時間を割けるような体制をつくる必要があります。たとえ兼務ではあっても「ボランティアコーディネーター」として配置し、ボランティアを歓迎する姿勢を組織の内外にもしっかりと知らせたいものです。

ボランティアコーディネーターという役割を任せられたからこそ意識して取り組める2つの重要なポイントを紹介しましょう。

■ボランティアは自分自身のニーズを持ってやってくる

ボランティア活動を希望する人たちは、それぞれの活動動機や背景、期待をもってやってきます。その組織やそこで働くスタッフ、あるいはその組織の顧客(例えば、福祉施設ならばサービス利用者、博物館ならば来場者など)のニーズに合わせてただ黙々と活動しようとしてやってくるわけではありません。雇用関係のある職員とはちがひ、希望と違ったり、期待はずれであったりすれば、明日からすぐに来なくなりますし、何も告げずに足が遠のいてしまうこともあるでしょう。

組織がボランティアに継続して活動してほしいと考えるならば、ボランティア活動(希望)者としてしっかりとコミュニケーションをとり、活動する目的や希望、活動してみたの感想など、ボランティアの側のニーズについて聴き取り、活動を通じての変化にも敏感に対応しなければなり

ません。ボランティアにとってのやりがいや楽しさは、その人自身の活動動機や期待に大きく関連するものです。個々のボランティアのニーズを把握するためには多くの時間を要しますし、そのニーズに合わせて活動内容などを調整する役割も同様です。単に時間の長さだけでなく、ボランティアの思いを引き出すコミュニケーションの力や活動プログラムを調整・開発する力をつけることも必要です。

■ボランティアの側の安心・安全を組織活動として考える

さらに、ボランティア受け入れにあたってのリスクマネジメントは欠かせません。リスクというと、例えば福祉施設や病院なら、第一に利用者や患者に何か良くない影響があるのではないかと考えます。また、「あてにしていたのに突然来られなくなった」、「頼んでいないことまで手を出してしまう」、「守秘義務が守られない」、など、組織の側から見た心配や困りごとはよく聞かれます。

しかし、ボランティアを受け入れている組織において欠けがちなリスクの視点は、ボランティアの側も傷つくことがあるということです。研修などの場面で受講者から「ボランティアコーディネーターにとってもっとも注意しなければならないリスクは何ですか?」と問われます。私は「なにか貢献したいとわざわざうちの組織にやってきたボランティア希望者の思いや力を結局活かせず、無駄に終わらせてしまうことだ」と答えます。ボランティアが安心して、安全に活動するための環境整備やサポートは、ボランティアの側の視点に立って、しかも組織活動として考えなければなりません。

担当者を配置せず、「皆でやればいい」と思っている、結局、忙しい現場では後回しにされたり、誰もやらないままになってしまうのではないのでしょうか。

◆◆◆ 会議・イベント・助成関連情報 ◆◆◆



第18回 全国ボランティアフェスティバルえひめ 分科会のテーマが決定

平成21年9月26日(土)～27日(日)に、愛媛県松山市で開催される「第18回全国ボランティアフェスティバルえひめ」2日目の分科会(全31プログラム)のテーマが決まりました。

フェスティバルの詳細や参加申し込みについては、ホームページ(<http://www.ai-ehime.com>)をご覧ください。第18回全国ボランティアフェスティバルえひめ実行委員会事務局にお問い合わせください。

〈分科会(9月27日)の内容〉 ※カッコつきの数字は分科会の番号

■ボランティアの理念系

【半日コース】

《午前》9:00～11:30

- (1) ボランティア活動の位置と展望～制度を超える地域協働の可能性を考える～
- (2) 安心して暮らせるまち
- (3) あなたの力が世界を変える
- (4) 愛媛版まちおこし
- (5) 制度の谷間を民間で支える
- (6) 路上からの復活支援
- (7) 限界集落で生きていく
- (8) 障がい者×地域×暮らし

《午後》12:30～15:00

- (15) 全員討論!～ボランティア・市民活動が生ま出す社会的効果・価値を考える～
- (16) 男の地域デビュー
- (17) 地域が育てた障がい児
- (18) 認知症をこえて認め合う
- (19) 食のユニバーサルデザイン
- (20) ワーク・ライフ・バランス
- (21) 外国人を地域で支える
- (22) 海外でのコミュニティケア
- (23) 自転車と国際協力
- (24) 愛媛の実践①人が織り成す地域ブランド
- (25) 愛媛の実践②まちを丸ごと博物館
- (26) 愛媛の実践③わが村の未来予想図

【1日コース】9:00～15:00

- (9) 減災! そのためにできること
- (10) 若い世代の気づき
- (11) サロン発! 元気・いきがづくり
- (12) おもちゃ図書館でつなぐ心とこころ

■団体運営向上(スキルアップ系)

- (13) 創(はじ)めにプランありき
- (14) 広報のスパイス(1日コース)
- (27) 人ノ間工房
- (28) 会議道!
- (29) 資金調達工房
- (30) 協働のあり方工房
- (31) 活動報告書のまっとう度

※(13)は午前、(14)は1日、(27)～(31)は午後

お問い合わせ先:

第18回全国ボランティアフェスティバルえひめ実行委員会事務局
(愛媛県社会福祉協議会 地域福祉班)
〒790-8553 松山市持田町三丁目8-15 愛媛県総合社会福祉会館内
TEL. 089-921-8912 FAX. 089-921-5289